

本田屋 そば通信

honda-ya
soba
communication

vol.03

2024.7 jul.

私たちのふるさと雲南に
夏がやってきました。
太陽が降り注ぐ季節も
変わらぬ味のために
本田屋の仲間たちは
汗を光らせています。

おいしいものには
物語があります。
土をつくり、耕し、
種を蒔き、慈しみ、
空と大地に祈る。
暮らしをつないでいく。



夏の月と、
蕎麦で涼を。



お蕎麦 × クラフトビール

夏の晚酌はやっぱりビール。
気鋭の醸造家たちが手がけた
島根生まれのクラフトビールと
一緒に、蕎麦はいかが。
爽やかな香りと喉ごしが、
暑さで疲れた体を癒やします。
いつもの定番おつまみも
ちょっと粋に感じられるはず。



※画像はイメージです。

NÄMEN SALAD NOODLE

- ① NÄMEN 麻辣まぜ蕎麦
そば(生)/ラー油&香醋
(ドレッシング風つゆ)
- ② NÄMEN ベトナムまぜフォー
米粉めん(生)/ヌクナム&レモン
(ドレッシング風つゆ)
- ③ NÄMEN 韓国ビビンうどん
うどん(生)/コチュジャン
(ドレッシング風つゆ)



① ② ③

ご注文・
お問い合わせは
コチラから!



出雲そば専門店

〒699-1121 島根県雲南市加茂町神原 1106-4

フリーダイヤル



0120-213-170

対応時間 / 平日 9:00 ~ 17:30
※土日祝日、年末年始、お盆は弊社休業となります



HP

緑が輝きを放ち、空も風も夏の色を濃くしていく。そんな季節が、本田屋の蕎麦工場がある島根県雲南市にもやってきました。自然豊かな地ですが夏の厳しい暑さは避けられません。蕎麦づくりに励む社員たちは、ふるさとの風景に涼を探しながら日々を過ごしています。

ふるさとの涼やかな景色は、心の栄養。

心 和むおすすめの風景を聞いてみると、ある社員は田んぼを挙げました。

「苗がすくすく育ち緑豊かな草原のようになった田んぼを風が吹き抜ける瞬間が好きです。風が渡っていく通り道が見えるんですよ。通勤途中に見かけると、夏が来たなとしみじみ感じて嬉しくなります」



この辺りの田園地帯は四月下旬から五月にかけて田植えのシーズンに入ります。苗がまだ小さい時期は水面に映る風景も美しく、水鏡を流れる雲を見つめるのも心安らぐひととき。毎日に苗が健やかに育っていく様子も、季節の移ろいを感じさせます。

目を向ければそこかしこに田んぼがある雲南地域ですが、広く知られているのは棚田の風景。大東町山王寺にある棚田は「日本の棚田百選」に選ばれ、憩いの場となっています。標高

300mの山腹の傾斜に沿って田んぼが広がる景色、谷を渡る涼やかな風、軽やかな蛙の声は至福の癒やし。ぜひ訪れていただきたいスポットです。

川の風景を愛する社員もいます。「通勤時に見る斐伊川、好きなんです」。斐伊川は奥出雲の船通山を源とする大河。流域にもたらされる肥沃な土と水が育んだ農の多様性は、蕎麦文化を生み出したものの一つです。



桜並木で有名な木次町の堤防にある沈下橋は、緑と川が織りなす景色のアクセントとなっています。実際に渡ることもでき、目を閉じて橋を渡りきると願いが叶う橋として映画に登場したことからも「願い橋」として人気。橋からはきらめく川面を近くに感じられ、涼を楽しめます。このような健やかな自然の美から元気をもらい、私たちは蕎麦づくりに邁進しています。

未来の夢を紡ぐ、仲間たちの新しい空間。

本 田商店の仲間たちが季節の美とともに楽しみにしているものも一つ。

工場の敷地内に建設中のリフレッシュ&ミーティングルームです。

外観はごんまりとした小さなおうちのよう。焼杉のモダンな壁には可愛らしいドアが大・中・小と三つ並んでいます。



一番大きいものは大人が通れるほどの一般的なドア。二番目は小学校低学年ぐらいの子どもの背丈ほどで、一番小さいものは「ごびとサイズ」。開けたときにワクワクするような夢のある仕掛けを準備中です。

施設内は主に休憩やミーティング、商談などに使われます。大きな窓に沿ってカウンターテーブルがあり、外の景色を見ながらお弁当を食べればリフレッシュできそう。

イベントなど新しいチャレンジをする実験場としても使っていく予定。本田屋の「おいしい」に「楽しい」をプラスする場として、期待が膨らみます。

